龍灯

第４８号

発行所　大阪市史跡 龍渓禅師墓所 霊亀山 九島院
〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725　FAX 06(6583)0908

発行者　第二十五世住職 奥田啓知（智證）

おめでとうオリックス・バッファローズ！　がんばれ大阪ドーム！

引越し女の大騒音騒動

仏教的解決法は？

「引っ越し！引っ越し！さっさと引っ越し！」大音量の騒音を二十四時間鳴らし続け、布団をパンパン叩きながら、鬼のような形相で怒鳴り散らす主婦。

テレビニュースやワイドショーでも度々とりあげられた騒動は世間の耳目を集めました。

『ゴミ屋敷』『マンションでのペット問題』など、隣人トラブルの報道は枚挙にいとまがありません。

私たちは、「みんな仲良く」「他人に迷惑をかけない」「人を憎んではいけない」と教わってきましたが、どだい、そんなことは無理なことなのです。

お釈迦さまは、「一切皆苦」といって、人生の現実はすべて思い通りにならないと教えています。生きている限り、いろんなごたごた（厄介事）に見舞われるのです。

人間である以上、社会生活を営む限りは、他人との関係を断つわけにはいけません。

お釈迦さまも、「愛する者と別離する苦しみ」と同時に「怨み憎む者と出会う苦しみ」をそれぞれ「愛別離苦」「怨憎会苦（おんぞうえく）」といって、人間がいくら努力しても回避できない苦しみであると教えています。

日本人はむかし、「引っ越し蕎麦」といったかたちで、隣人とのうまい付き合い方の知恵を持っていました。「あなたのおそば（蕎麦）に引っ越して参りました。よろしく」の意味で、引っ越し先のご近所に近づきのしるしとして蕎麦を配ったものでした。

こうした慣習は外国にはありません。アメリカでは、隣近所の人が引っ越してきた人の家へ訪ねていくのだそうです。そして、その新来の隣人の家族構成や職業・趣味などを聞き、また自分のほうのそうした情報を教え、お互いの友好関係を確立し時にはご近所を招待して、友好関係を維持高めるのだそうです

ひるがえって、現在の日本では、隣近所のそうした付き合いが薄れてしまいました。日本でも昔は、醤油や味噌の貸し借りなど、日常茶飯事でしたが。

隣人トラブルに見舞われたらそのごたごたをなくそうと考えてはいけません。生きているかぎり、ごたごたはなくならないのですから。

仏教的な解決法は、「忍辱（にんにく）」といって、じっと迷惑を我慢する方法ですが、今回のような場合は、度が過ぎており、裁判に訴える他なかったとは思います。

ここまでこじれたら無理かもしれませんが、思いきって隣家の人を夕食に呼ぶなどしたら、案外和解の糸口が見つかったのかもしれません。どうしても解決できない場合は、別の場所に引っ越すしか仕方ないでしょう

お釈迦さまも、「縁なき衆生は度し難い」と言っておられます。